

日本近代製鉄業の父 大島高任 略年表

年号	西暦	年齢	事 項
文政 9 年	1826	1	5月11日、盛岡城下仁王小路の藩侍医・大島周意の長男として生まれる。幼名文治、後に周禎。
天保13年	1842	17	江戸に留学。箕作阮甫、坪井信道らに蘭学学ぶ(3年間)。
弘化 3 年	1846	21	長崎遊学。兵法・砲術・鉱山・精錬を学ぶ。西洋砲術については、免許皆を伝うけた。
嘉永 3 年	1850	25	5月、大和郡山藩などからの依頼を受け大砲を鑄造。西洋流砲術による初の砲弾発射。12月、南部藩に帰る。
嘉永 4 年	1851	26	2月、長沢伝九郎の長女八十(やそ)と結婚。5月3日、南部藩の御鉄砲方を命ぜられ、藩士に西洋砲術教授。帰俗して総左衛門と改名。
嘉永 5 年	1852	27	江戸に留学。伊東玄朴の象先堂塾で兵法・砲術学ぶ。
嘉永 6 年	1853	28	水戸藩より、反射炉築造依頼される。5月、三閉伊一揆で帰藩命令下る。
安政元年	1854	29	5月、水戸藩の招聘により、大砲鑄造反射炉建設のため水戸へ。8月22日地鎮祭。
安政 2 年	1855	30	11月21日、水戸藩那珂湊反射炉最初の火入れ。
安政 3 年	1856	31	2月22日鉄を溶かすが失敗。3月4日成功。8月南部藩に一時戻る。9月26日大砲鑄造成功。作業場でわが国初のガス灯利用。11月南部藩洋式高炉建設願書提出。
安政 4 年	1857	32	3月、南部藩甲子村大橋にてわが国初の洋式高炉を建設着手。5月、願書許可下りる。12月1日日本初鉄鉱石精錬による初出銑成功。12月26日長女繁が生まれる。
安政 5 年	1858	33	1月12日、水戸藩に戻る。3月大橋での「南部鉄鉄」を水戸の反射炉で溶解。5月、南部藩から藩営高炉建設命ぜられ6月建設着手。
安政 6 年	1859	34	水戸藩反射炉閉鎖。1月水戸藩雇入御免になる。
万延元年	1860	35	1月19日南部藩御国産方頭取・御勘定奉行格に就任。2月、幕府の蕃書調所出役教授手伝となる。6月家督継ぐ。6月18日、長男道太郎生まれる。
文久元年	1861	36	2月29日父、周意没(享年61歳)。大橋に高炉2座築造。8月洋学館設立の懇願書提出。
文久 2 年	1862	37	5月2日、公儀御用として函館奉行手付となり、石炭開発に従事。
文久 3 年	1863	38	南部藩校「日新堂」設立。北海道で米国人ラファエル・パンペリーより「火薬爆破法」学ぶ。日本人初の発破による鉱石採掘。
元治元年	1864	39	1月23日、次男専次郎生まれる。2月、北海道イクナイ石灰山に出張採炭に従事。
慶応元年	1865	40	10月16日、大橋・橋野両高炉築立盛行につき、藩より銀5枚賜る。
慶応 2 年	1866	41	2月、藩命により宮古通近内村に反射炉建設着手。12月、建設中止。
慶応 3 年	1867	42	3月、藩命により小坂銀山(秋田県小坂町)高炉建設着手。5月、鹿角郡尾去沢銅山の技術指導。
明治元年	1868	43	「日新堂」閉鎖。大砲御用となる。8月大橋高炉休止。
明治 2 年	1869	44	1月18日、勘定奉行。8月2日、大学校大教授。12月2日、新政府・民部省鉱山権正(次官)に就任。総左衛門を高任に改める。
明治 3 年	1870	45	9月、新政府に「坑学寮新設に関する意見書」提出。10月3日、盛岡より東京に移転。
明治 4 年	1871	46	7月、小坂銀山に派遣。11月10日、岩倉遣外使節団として欧米の諸鉄山を視察。12月18日叙勲正六位。
明治 6 年	1873	48	6月25日、ドイツより帰国
明治 7 年	1874	49	釜石官営製鉄所に着き適地をドイツ人技師ビヤンヒーと論争(工部省は翌年10月23日ビアンヒー案採用)
明治 8 年	1875	50	3月13日、鉱山権頭に任命され小坂銀山に転勤。2月13日十輪田銀山開拓。
明治10年	1877	52	小坂鉱山分局長、阿仁鉱山局長を歴任。長男道太郎ドイツ留学。
明治11年	1878	53	7月9日、阿仁・院内両鉱山開坑。9月、軽井沢銀山(福島県)を単独で経営(明治14年に譲渡)。母千代没。
明治12年	1879	54	11月、軽井沢鉱山独力経営による資金不足のため古河市兵衛・北村重威と共同出資契約。
明治15年	1882	57	阿仁鉱山並小坂分局長に勤務。12月18日、釜石鉱山官行廃止。道太郎ドイツより帰国。
明治16年	1883	58	3月1日、工部大技長。9月22日、阿仁鉱山局長。10月28日、小坂鉱山局長兼務。
明治18年	1885	60	10月8日、佐渡鉱山局長。「高任坑」
明治19年	1886	61	1月12日、大蔵一等技師。1月14日、佐渡工業所長。5月12日佐渡鉱山事務長。
明治21年	1888	63	4月、那須野を開墾し、葡萄園つくる。11月、病気にため東京へ転地療養。
明治22年	1889	64	3月21日、大蔵技監。3月26日、叙勲従四位。4月日本仏国鉱山及び金石万国公会「名誉会長」に推薦される。次男専次郎ドイツ留学
明治23年	1890	65	3月26日、日本鉱業会初代会長になる。「那須葡萄酒」鑄造開始。
明治28年	1895	70	4月25日、隠居、家督を長男道太郎に譲る。東京都北区西ヶ原に「茶園」を開設(後の旧古河庭園)
明治33年	1900	75	1月29日、妻八十没。
明治34年	1901	76	3月29日、東京都本郷の自宅にて没。東京谷中天王寺に葬られる。